

【実践報告】

「生徒の理解」の報告

広島文教大学教育学部教育学科

教授 小西 弘 信

教授 森 哲 之

非常勤講師 笹原 豊 造

1 はじめに

「生徒の理解」は教職課程の「大学が独自に設定する科目」に関する科目である。本科目の目標は、中・高等学校における生徒の生活や学習の実態に即して、生徒の発達・学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応方法を考えることである。具体的には、生徒理解から発達・学びを捉える原理や、生徒理解を深めるための教師の態度の基礎、観察・記録の意義、観察法の基礎、個と集団の関係や人間関係、その他の背景から生徒のつまずきを理解することについて、講義やグループワーク、現場の短期見学などを通して理解する。また、保護者の心情と基礎的な対応方法についてもあわせて理解する。また、この科目は「幼児の理解」、「児童の理解」と連携しており、幼児期から中・高等学校へと成長する過程を見通すことを目的としている。お互いの観察での気づきを発表し合い、そこから得られる知見と体験を共有することも大きな目的である。

具体的には、観察実習で得た生徒の言動をから作成したエピソード記録を読み、生徒の発言や行動に注目しながら生徒一人ひとりの発達や学びについて考察をする。更にグループでの話し合いを通して、他者の視点に気づき、個の発達や学びに関する理解を深める。そこで得た知見を基に、「幼児の理解」及び「児童の理解」の受講生とグループをつくり、すなわち「校種間交流」を行うことで、共通のトピックである「子どもって〇〇」について意見交換を通して、各成長段階での特徴を把握し、今後の学修に役立てる。

2 実施のスケジュール

全15回の授業実施内容は以下のとおりである。なお、本授業は1時間（実時間45分）であるが、学外での現地実習を行う第5回、第9回については45分を超える。また、本科目は「幼児の理解」「児童の理解」と合同で授業を実施する機会も設けており、下記の「合同（幼児・児童・生徒）」というのがそれである。

回	月日	内容	授業形態
第1回	令和5年9月28日	ガイダンス	合同（幼児・児童・生徒）
第2回	令和5年10月5日	子ども理解の意義	合同（幼児・児童・生徒）
第3回	令和5年10月12日	心構え・諸注意	合同（幼児・児童・生徒）
第4回	令和5年10月19日	観察の目的	合同（幼児・児童・生徒）
第5回	令和5年11月1日	観察実習Ⅰ（広島市立広島中等教育学校）	生徒
第6回	令和5年11月2日	記録に基づいた討議	生徒
第7回	令和5年11月2日	エピソードの書き方	合同（児童・生徒）
第8回	令和5年11月16日	エピソード記録に基づいた討議	生徒
第9回	令和5年11月28日	観察実習Ⅱ（広島市立可部中学校）	生徒

第10回	令和5年12月7日	討議と発表	生徒
第11回	令和5年12月7日	討議と発表	生徒
課外	令和5年12月14日	生徒の理解に関する講義と演習(1)	生徒
課外	令和5年12月21日	生徒の理解に関する講義と演習(2)	生徒
第12回	令和6年1月11日	校種間交流	合同(幼児・児童・生徒)
第13回	令和6年1月11日	校種間交流	合同(幼児・児童・生徒)
第14回	令和6年1月18日	まとめ	合同(幼児・児童・生徒)
第15回	令和6年1月25日	まとめ	生徒

3 観察実習

第5回と第9回において観察実習を行った。ここでは、「観察実習Ⅰ広島市立広島中等教育学校」に関して詳細を述べる。1回目の観察実習は、大学近隣にある広島市立広島中等教育学校で行った。

○実習生32名を6グループ(5名×4グループ, 4名×2グループ)に分ける。

○授業の見学はグループごとに行う。(授業クラスを参照)

以下が、その観察実習の「授業クラス」及び「時程」である。

(授業クラス)

コース	5限	6限
国語教育コースAB(12名)	3年3組国語	6年3組古典
国語教育コースCD(12名)	1年2組書写	3年2組国語
英語教育コースE(4名)	4年2組論理表現	3年3組コミュ英
英語教育コースF(4名)	4年2組論理表現	1年4組英語

(時程)

11月1日(水)	13:15	本校到着
	13:15~13:45	挨拶, 諸連絡
	13:50~14:40 【5限】	【国語教育コース】 国語(3年3組)AB 書写(1年2組)CD 【英語教育コース】 論理表現(4年2組)EF
	14:50~15:40 【6限】	【国語教育コース】 古典(6年3組)AB 国語(3年2組)CD 【英語教育コース】 コミュ英語(3年3組)E 英語(1年4組)F
	15:45~	暮会 ※6限参観クラスにて
	16:00~16:20	本日の振り返り(旧食堂)
	16:30	解散



【写真1：広島中等教育学校】



【写真2：広島中等教育学校】



【写真3：可部中学校】

4 成果と課題

「生徒の理解」の成果は、学生たちが「学校」、「教師」、「生徒」について、自らを将来教師になるものとしての自覚をもって臨む貴重な教育体験ができたことである。2回の観察実習及び校種間交流を通して、生徒として眺めていた教育活動を、教師としてその営みを具体的に意識化することができた。また、個々の活動に臨む学生たちの態度も、概ね満足できるものであった。「校種交流」によって、「幼児の理解」と「児童の理解」とつなぐことができたことも成果である。以下は「観察実習」と「校種間交流」を通しての代表的な学生の感想である。

(観察実習)

今回の実習を通して生徒たちの様子を細かく観察することができました。全部で四つのクラスを見させていただき、クラスによって雰囲気や授業への関心度など生徒たちの個性を感じました。またエピソード記録を書くことで自分がどのようなことを考えながら生徒を観察していたのかよく考えることが出来ました。実習中には実習生が気になっていたのか落ち着かない生徒もいましたが、真面目に授業に取り組んでいる生徒ばかりだったと思います。そして改めて教員になりたいと言う気持ちを確かめることもできました。

(校種間交流)

他校種の人との交流の中で気づいたことは生徒に比べて、幼児・児童は自由度が高いと感じた。私は思春期と何か関係があるのではないかと考えた。印象に残ったのは「言いたいことを言える環境」についてである。私が行った学校では言いたいことをどんどん言うような生徒はあまりいなかったが、他校種ではそういった子どもが多い印象を受けた。今後は、子どもの成長にあった教育法についてより深く理解していきたいと感じた。

「生徒の理解」の課題としては、観察実習において、社会人としてのマナーを遵守することや現場教員との交流の積極性を上げることで、同実習においてさらに知見を広げることが大切ではないだろうか。また校種間交流において、他のグループとミーティングを深められるようにその方法を工夫することも必要であろう。